

「黒木小学校の黒木鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立黒木小学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生（計14人）及び中学生（17人）計31人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年11月27日(土) 本校体育館

令和3年12月4日(土) 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

コロナウイルス蔓延防止のため発表の場はなし

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

黒木鷹踊り（くろきたかおどり）

(2) 由来

昔は，上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり，もともとは，鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

(3) 構成等

すててこ，笠，扇子，鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け，棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を三味線や太鼓の楽曲に併せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

黒木鷹踊りは約30年の歴史を持ち，数年前までは，黒木小学校児童だけが踊っていたが，校区の伝統芸能の継承の意義を考え，11年前に保存会を立ち上げて現在に至っている。現在小学生3～6年生31人で活動しているが，踊りの練習は，地元保存会の永野光輝氏を中心に中学生にも力を借りて，踊りの指導していただいている。中学生が小学生へと黒木の伝統をつなぐ形をとっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら黒木鷹踊りを継承していくために，学校に「黒木鷹踊り保存会」事務局を置いている。副会長に黒木コミュニティセンター会長を置き，「黒木鷹踊り」を継承していくために地域と連携する態勢を整えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生児童】

今日はたかおどりの練習がありました。さいしょに中学生がおどって見せてくれました。とても上手だったので、わたしにできるかなと思いました。中学生に教えてもらったら、少しずつおどれるようになってとてもうれしかったです。

【5年生児童】

たかおどりの練習をしました。わたしは中学2年生のお姉ちゃんに教えてもらいました。最初の方はとても簡単なのですが、だんだんと難しくなっていきます。回るところがまだうまくできないので、上手におどれるようにがんばります。

【中学2年生徒】

たかおどりは、小学4年生から始めました。最初は手の位置や動きなど分からないことばかりでしたが、先輩たちからくわしく教えてもらったおかげで、今年のはたかおどりを始めて5年目を迎え、今は教える立場になりました。自分たちにできることを次の世代の人たちに伝えて、このたかおどりが黒木を代表する伝統的なおどりになることを願っています。伝統的なおどりに関わっていることに感謝しながら、おどっていきたいです。

【中学3年生徒】

鷹踊りを始めて6年が経ちました。最初のころはよく分からず、難しいと思うことがたくさんありましたが、教える側に立ち、下の子たちにしっかりと教えることができました。これからも伝統の踊りを残して行ってほしいです。

【教職員】

昨年はコロナ禍で練習や発表ができませんでした。今年度は発表の場はもてませんが、伝承活動の意味を考え、練習のみ行うことにしました。たった2回の練習でしたが、練習を通して子供たちの多くが、地域の伝統を守ったり、黒木校区を盛り上げたりするために、鷹踊りを続けたいと感じたようでした。子供たちや地域の期待に応えるために、学校としても鷹踊りの事務局を担い、児童の引率や踊りの指導などの支援が続けられればと思います。

【保存会・指導者】

黒木に住む若い人たちに「黒木鷹踊り」を継承して欲しいです。踊り子は、若さを発揮して、失敗しても堂々と弾むような躍動感のある踊りを見せて欲しいです。